

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-----------|-----|----------------|
| ○事業所名 | 結の会 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和6年1月6日 | | ～ 令和6年1月17日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 14人 | (回答者数) |
| ○従業者評価実施期間 | 令和6年1月14日 | | ～ 令和6年1月23日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8人 | (回答者数) |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和6年2月12日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 児童生徒の障害の程度の分析力、支援方針や支援方法の最適化や具体的な支援方法の引き出しの多さは、誰にもまねできない知識・経験値がある。言語訓練に関する手立て・動作法や感覚統合に関する手立て・作業療法による手立てなどの充実したストックだけでなく、その経験値なども合わせて豊富な知識量があること。 | 児童生徒の問題行動や、発達遅滞に対する個々のケース会議を行って行くことで、目標は同じであっても支援の方法を常に変更できる体制が整っています。日々、遅滞をどう底上げしているのか、問題行動を改善するための話し合いや適切な手段・手立てをあらゆる教育原理・教育法をもとに考えていくように取り組んでいます。 | 児童生徒の何が出来る・何ができないなどの現状表や現状での達成率が一目でわかる全児童生徒の一覧表を作成しています。ケース会議での議題への対応や、支援方法や手立ての対応も一覧を通じて、職員全体がどう取り組めばよいのか、なぜ問題行動が起きているのかなどを分析する糧となっています。 |
| 2 | 通所開始以来児童生徒の障害の程度に応じて、3年計画としてのレベルアップを、職員全体で同一方向を向いて係わりを持つことができる点での強みがある。特に、将来的な就労を常に全職員が考えながら取り組むことが可能になるように、ビジョンを共通意識として持っている点は、支援のレベルや内容に大きな強みとなっている。 | 作業学習などを通じて、将来的な指先や身体を使った取り組みを大切にしています。作業所や就職先で行うような作業モデルを実際に提供しつつ、全体で取り組んでいます。指先の巧緻性だけでなく、仕事への集中力や心構えなども考慮しながら、また経済活動とのリンクも大切にしながら、児童生徒のモチベーションを上げていく取り組みをしています。 | 実際の就労支援で行っている内容をどう取り組んでもらうか、それに必要な知識や技術をどう伝えていくかなどを常に配慮しながらの取り組みにします。必要な技術的な要素や巧緻性を高めていく訓練を遊びなどの中から求めています。また作業が児童への意欲を高めるような内容にするために社会性・経済性を複合した内容にすることへも配慮します。 |
| 3 | 年間行事としての音楽祭や夏祭り、またクリスマス会などを通じて、児童生徒の主体性を大切にしていること。個々の役割を理解して共同で一つのものを生み出すことで、毎年成長がみられることなども、支援の中で大きな強みとなっている。 | 音楽活動・音楽療法を通じて、児童生徒の発達・成長を求めていくことは日常のことなのですが、それ以上の取り組みとしての音楽祭的な内容を、子供たちの主体性を引き出しながら、作り上げることを目指しています。1か月から2か月ほどの時間を費やしなが、共同して作り上げることで、帰属意識を高めて成長を促す取り組みとしています。 | どうしても支援者が中心になりがちな活動ですが、児童生徒の話し合いも持ちながら内容を精査しながら活動します。その中でも特に役割分担が必要な合奏に焦点を合わせて、自分たちが作り上げる活動にすることを大切にしています。達成感や帰属意識の構築ができることが一番の課題としての取り組みです。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 経済的な点での弱みがある。作業の充実や実態に即した作業を実施しようとすればそれなりの道具や準備物の必要性があるが、それに見合う予算が計上できない時が多い。作業だけ限らず各種の行事などに関しても同様で、親会社があるわけでもない零細では、難しい課題と続いている。 | 売上げの少なさや加算をとれない現状が経済的な弱みの最大の原因となっています。3年ごとの報酬改定での減算によって、児童生徒の活動へ回せる費用が減少してしまっていることが大きな弱みとなっている。また昨今の物価高にも財政的に圧迫されている現状もあります。 | 少ない予算内での工夫しかありえない。時に楽器や書籍、作業道具が必要であったりする場合には、寄付で賄っていたり、個人の善意での寄付であったり、やりくりしているのが現状です。 |
| 2 | 学校との連携が取りにくい現状がある。もちろん学校にもよるが、取りづらいのは明らか。根気よく連携を求めています。なかなか難しい。連携によって、児童生徒の成長への支援のあり方をより徹底したものにすることができるが、学校の連絡帳を拝見させてもらって推測するしかできない。 | 一つには、学校とデイとの時間的な関係から難しいのは明らかではあるが、学校側がデイとの連絡会と称して行っているもののほとんどが送迎時の受け渡しに関するものがほとんどであること。またカンファレンスで参加させていただいても、毎年担任が代わり、引継ぎが不十分であったりする現実がある。長期休暇中の施設見学・訪問もされていないことが現状。 | 根気よく働きかけを行っていかしか手段や方法はないように感じている。 |
| 3 | 会議の頻度が増え、職員への負担が増加している。職員の疲労も弱みの一つになる。常にベストな状態での支援活動を望んでいたとしても、会議の負担があることで、ある程度の負担は考えられる。また、それに伴い時間的な制約や拘束（給与への反映）なども個人の負担となり、会社としての経済的な負担となってしまう。 | 法的理由での会議や研修の増加は仕方のないことではあるが、ここ3年間で会議の頻度は増加している。時には長引くこともあり、日数のかかることもある。それに伴い、会議の負担が、児童生徒への支援の不十分さにつながることも十分に考えられる。ケース会議などの直接的な支援にかかわる会議以外のものが多く、負担とらえている職員も多い。 | できるだけ会議の時間を短くしていきたい。長時間にわたる会議は日数をかけて取り組んでいます。職員間の関係を良好に保つことや支援に影響の出ない程度にとどめおきたいと考えています。 |